

○駙馬都尉故特進兼左衛大將軍雲中郡開國公踏沒施達干阿史德覓覓。

これ毗伽公主の夫の名を記せるものなるべし、ヒルト氏は此れを以て舊唐書突厥傳に見ゆる、阿史德胡祿と同一人なるべきを言へり、其の開元三年の條に「默啜女婿阿史德胡祿俄又歸朝、授以特進」と記し、通典卷百九十八にも同様の記事見ゆ、胡祿と覓覓とは一見其の名を異にするが如きも、然も胡祿とは突厥語 *Kılıg* の對音にして俱錄、俱陸等と記するものと同一なるべく（闕特勤の闕 *Kül* も同じかるべし）、「名聲ある」の意なれば實は其の本名にあらず、胡祿都督、胡祿毗伽可汗等の例に於るが如く、一種の美稱にすぎず、思ふに覓覓は其の本名なるべければ、此の兩者を同一人と見ることは、此の點よりしては不都合なかるべし、而して之を默啜の女婿と記し、又た等しく特進といへる等の諸點より考がふれば一たびは此の比定をして首肯せしむるに足るものあるべし。（後説参照）

踏沒施なる語は今適當なる解釋を知らずと雖、試みに之を考察すれば、或は唐書等に屢々見ゆる登利沒密施の語と等しきものならんか、登利は *täng-ri* にして「天」の意、沒密施は *bulmis* にして「なりし」「ありし」等の意にて（動詞「ある」の過去）次に見ゆる「天上得」の意なりとす、登利と踏とは利なる音を缺く點に於て相殊なれども、然も天即ち *täng-ri* を登利、登里、騰里、滕里、德曷里等と記せる外に、只だ「登」の一字を以てする例は新舊唐書の回鶻傳を見れば決して一二に止まらず、登と踏との音は略ぼ相等しかる可ければ、踏が登利の略にして、*täng-ri* を寫せるものなりと見る可きは、強ち理なきには非るべし、沒施は沒密施の例に就て考がふる時は、*bul-si* の音を寫したるものと云はざる可からざるが如きも、*bul-si* にては突厥語として意味を成さざるが如し、故に沒密施の密字が故意か或は偶然の理由によりて脱略せられたるものなるべく、果して然らば踏沒施は踏利沒密施即ち